

田和山の森から

7～9月は午前中作業

今年も暑い夏になりそうです。昨年同様7月から9月まで作業時間を午前中9時からとします。暑さ対策として日中の直射日光を避け、できるだけ西側の日陰の場所で作業になるよう計画したいと思います。各自体調を考え、水分補給を充分にとり無理の無いように活動して下さい。

○ 6月の作業

6月の作業は、東側D区画（持田邸の上部）の整備でした。ここには10周年記念事業（H24.12）で植樹したコナラやクヌギが大きくなり、シイタケ栽培の原木に適した大きさにまで成長しています。また、15周年記念事業（H29.12）で植えたアスナロやヤマモミジも大分大きくなってきています。下草やツタ類も生えており、6月の作業はこれ等の刈り取りをしました。

環濠遺跡の花火見物

8月5・6日（土・日）に開催される松江市水郷祭の花火大会は、これまでと違い湖畔はすべて有料席、宍道湖大橋上は見学禁止となりました。この関係で、田和山遺跡に見学者が殺到するのではと予想されます。これまでも大勢の人が遺跡に登り見学しており、管理する埋蔵文化財調査課では、今年は入口1か所とし、希望者350人に制限して見学を許可制としました。

照明を設置するなど全対策が取られますが、見学に行く場合は夜の高台での花火見物ですので、懐中電灯を用意するなど安全に気を付けて下さい。



休憩タイム



成長したコナラ・クヌギ



外来種の草を取る女性たち

田和山の樹木 第41回 ネムノキ

ネムノキは、本州、四国、九州及び沖縄に分布するマメ科ネムノキ属の落葉樹です。痩せ地に育つ代表的な樹木であり、山地だけではなく、道路沿いや川岸などの場所で目にすることが出来ます。ピンクから白のグラデーションの花が6月下旬から咲き始めます。花の形がハケのように見えるのも特徴のひとつです。開花の時間帯は夕方、夏の夕暮れどきにネムノキの花が咲くと、ほんのりと甘い香りがあたりに漂って、幻想的な雰囲気になります。



田和山では尾根筋の遊歩道と頂上の展望台でみる事が出来ます。ネムノキは、就眠運動という、夜になると葉を閉じる特徴があります。このことから「眠りの木」、転じて「ネムノキ」と呼ばれるようになったとされています。この動きは、葉の中にある光センサーによって小葉がゆっくりと閉じるからだと言われています。完全に閉じるまで1時間ぐらいかかります。ネムノキは草本類のオジギソウと違って、手で触っても葉が寝ることはありません。また、漢字表記は「合歓」です。（竹下記）

ヤマユリの盗掘

ヤマユリが今年はたくさん咲きました。森の尾根に上がった所の東側に特に綺麗な花がたくさん見られました。キンランに続いて咲くヤマユリは田和山の名物になりそうです。

ところが、これまでなかった盗掘が一部見られました。折角、農林高校のクラブの生徒が保護のための看板を立てており、会員も花を増やし市民の皆さんに楽しんでもらおうと大切に育てています。心無い人に根こそぎ取られるのは大変残念です。今後は対策を考える必要があります。



田和山のヤマユリ

今後の活動予定

7月7日（金）9：00～、15日（土）9：00～、21日（金）9：00～、28日（金）9：00～、
8月4日（金）9：00～、11日（金）休み、19日（土）9：00～、25日（金）9：00～、

階段入口のアジサイ →

